

様式 4

令和 7 年度第 1 回
富士見市いじめ問題対策連絡協議会
議事録

日 時	令和 8 年 3 月 2 6 日 (木)		開会	午後 1 時 4 5 分			閉会	午後 2 時 5 0 分			
場 所	富士見市役所 2 階 市長公室										
出 席 者	委 員	齊藤委員	内海委員	加藤委員	田中委員	林委員	○	欠	○	○	○
		永井委員	泰間委員	小林委員	筑田委員	石原委員	○	○	○	欠	○
		武田委員	鈴木委員	小日向委員			○	欠	○		
	事 務 局	子育て支援課長、学校教育課長、子育て支援課副課長、									
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者なし）										
議 題	1 開 会 子育て支援課長 2 委員自己紹介 3 いじめ問題対策連絡協議会の役割について 4 会長及び副会長の選出 5 会長あいさつ 6 意見交換 7 その他 8 事務連絡 9 閉 会										

議 事 内 容

1 開 会 子育て支援課長

2 委員自己紹介

3 いじめ問題対策連絡協議会の役割について
～事務局より説明～

4 会長及び副会長の選出
会 長 小日向 哲也 委員
副会長 林 克巳 委員

5 会長あいさつ

6 意見交換

【会 長】各委員の皆様それぞれのお立場から、現在の活動内容や現在課題になっていること、また日頃からいじめ問題に対して感じていることなどお話をお願いします。その後、お話しいただいた内容について、アドバイス、または感想などの意見交換をしていただきます。

【委 員】学校現場では、該当者が嫌だと思ったり感じたりしたことをいじめとして認知する動きが徹底されてきているため、認知件数が増えている現状です。早期発見、早期対応をして、大きな問題になる前に、しっかりと子ども同士、親も踏まえて解決が進んでいるというのが全体的な傾向だと思います。しかしながら、富士見市でも重大事案は起こっています。学校、家庭が子どもを第一に考えて対応していくことが大事だと思います。

【委 員】私見ですが、「嫌だと感じたらいじめ」と定義されていると難しいところはあると思います。嫌だと思うのかというような事柄については対応が難しい。また、親からも、子どもが嫌な思いをしたからいじめであるという主張があったりします。学校の人間関係でもまれていく中で、子どもが成長していくものと考えますが、「いじめ」という言葉がつくと全て良い悪いになってしまい、そこでの指導や支援というのはなかなか難しいなと感じております。

【委 員】埼玉県では第3日曜日を家庭の日と定めていて、それを周知する活動をしています。いじめについても家庭の関係が結構あると思っていて、子どもが今家の中で自分の困っていることについて親に言えない、親が忙しいことを分かっているからこそ言い出せない、それが積もってしまうと最後に不登校になってしまう子どもが多い気がします。月に一回でも集まってなんでも話し合えるような場があれば少しは違うのかなと思います。

先ほどのお話のとおり、今のいじめは難しいです。ちょっとしたいたざらを気にしない子どももいれば、いじめられていると言う子どももいる。ふざけているのがいじめの第一歩になることは確かなような気もするのですが、その見極めが、普段接している先生方や、親にも見えない部分もあるでしょうし、地域としても難しい。みんなが分かり合えるような社会になっていければいいなと思います。

【委 員】普段高齢者主体の活動が多いのですが、子どもとは夏休みの宿題教室で接しています。宿題教室を実施した時に、休憩時間に小学校中学年のこど

もに「それかわいいね、見せて」と声を掛けたら、強い言葉で拒絶され、その言葉遣いにびっくりしてしまいました。たまたまかもしれませんが、家庭の事情というのか、家庭によっては、親も他人に対しての態度とかがそうなのかなと思ったりして、ちょっとすごくショックでした。

【会長】家庭の中も大事なのかなと思いますね。

【委員】ここ数年中高生の犯罪については少なくなっていると感じます。犯罪をしてしまったこどもはほとんどが、親が自分の意見を聴いてくれないと言います。親がもっとこどもに接し、何を言いたいかに聞いてあげることによってこどもの犯罪は少なくなるのではと思います。

いじめについては、いじめる方が悪いのは確かですが、いじめられる方に何か原因がある場合もあるかと思っています。親はこどもがいじめられていればわかると思うので、その行動や内容について、どうすればいいのかアドバイスとかできるといいと思います。

【委員】児童虐待や家庭の相談など行っています。いろいろな家庭と関わりますが、発達の課題を抱えているこども、親の場合、かなりの割合でいじめの被害者または加害者となっていることがあります。発達の課題を抱えていることといじめは密接な関係を持っているかなと思います。

【委員】いじめの問題は人権問題だと考えています。基本的にはいじめる方が悪いというのが大前提だと思っています。いじめは、家庭の問題や社会の問題とか、そういうのを抱え込んでいるこどもたちや青年からでてくる問題だと思っています。いじめをするこどもや見て見ぬふりをするこどもは原因とか背景とか様々で、それを何とかしようとしてもがいているのが現状ではないでしょうか。こどもやその親などの変化を見逃さず対応していくことができるようになったらといつも思います。昔から言われているように、親は子の鏡、子は親の鏡だということが関係しているかなと思います。

【委員】親世代の考え方が昔と今では違うのかなと思います。今のこどもは、その親に育てられているので、考え方とかが今までとは違うのかなと思っていて、例えば学校に来なくなったこどもは、親も学校に行かなくてもいいと言っているケースも割といる気がします。考え方、価値観の違いなど、みんな違うことを認められる社会になれば一番だと思うのですが、考え方が違うことを譲れないことで戦ってしまうというのが最近の傾向なのかなと思います。

【会長】ダイバーシティだとかいわゆる多様性を認め合おうというのが今言われています。実際なかなか難しい部分もありますが、認め合おうというのが、今の流れですが、小中学生だとちょっとの違いが気になってしまうのかもしれない。

【委員】こどもたちの中には、スマートフォンやゲーム、携帯電話などそこだけの世界があります。SNSなどによって、いじめ等が数多くあると聞いています。SNSなどのいじめは、表面化しづらく発見しづらいため重大事案になってしまふところがあります。小中学校に対して非行防止教室など行っていますが、いじめはこういうことをすると犯罪になるということなどを伝えることで非行防止になればと考えております。

また、いじめの相談も少なからずありますが、法に触れるようなことがあれば、いじめという枠組みではなく事件として扱うようになります。

【委員】学校で扱ってきた対応についての考察というか感想ですが、いじめに関しては、結構短絡的なものが多いというのが印象です。相手がどういう思いになるかという想像力に欠けています。今は便利な世の中で、すべてが簡単にでき、修復まで簡単にできると思い込む。結果を元に考えることは

あるが、やる前に考えるということがすごく落ちてきている。AIが入ってくると、更に思考力低下につながるのではないかと感じています。

いじめについていろいろなお話がありましたが、いじめの解決にあたってはその背景をしっかり捉えなければならないと思っています。いじめに関しては心的要因が大きいと感じます。何かに対して不満を抱えている人が表に出る、妬んで誰かに当たる。その要因の一つは家庭的要因で、しつけがしっかりしていない場合や、逆に厳しすぎて外で発散している場合、貧困問題、ヤングケアラー、過剰な教育の期待、親からの愛情不足で人の感情に気づけないこともあります。また、発達の要因としては、特性があり感情のコントロールが難しい、忖度できない、空気が読めないなどで、いじめをやる場合もやられる場合もあります。社会的要因としては外国籍のこどもが増え、言葉が分からない、感情や思いが伝えられない、文化が違うなどがあります。学校で一番大きいのは、学習に適応できない、勉強ができない、分からない、つまらない、みんなができることができないと心のモヤモヤが溜まっていきます。それぞれの要因が複雑に絡まっていて、何が要因なのか考えた対処が必要だと思っていますところ。

あと、複雑にしているのが、家庭の価値観と個人の権利意識です。社会全体を意識してではなく、家庭の価値観を押し通し、権利だと思いついて、これくらいは当たり前という意識から過剰になっていく。親の思いが、学校内である程度解決するものを、大きく膨らましていくという傾向もあるかと思っています。

単発的なものじゃなく、複合的なものが多いので、それぞれの対応をしっかり情報を集めて対応していきたいと思っています。

【委員】家の近所にいるこどもたちは、小さい頃は最初恥ずかしがっていても挨拶とかしてくれます。それが5～6年たって高学年になると、思春期なのか、無視したり挨拶してくれません。そのこどもたちを見ていると、よく遅い時間に集まってスマホゲームをしています。仲良くやっているうちはいいのですが、うまくできないなど差がでてくると、場合によってはそれが原因で仲間外れとかになるのかなと思います。挨拶はされなくなってしまうましたが、家庭でも学校でもない地域の目として、こどもたちを見守って、何かありそうなら声をかけていければと思っています。

【会長】皆様大変貴重なお話ありがとうございました。皆様にお話しいただきました内容で、もう少し聞いてみたいとか、ご意見、ご感想でも結構ですので、自由にお話をしていただけたらと思います。

【委員】こちらの協議会の対象は小学生くらいが対象ですか。

【事務局】いじめ防止条例をベースに考えており、小中高の学校に在籍する児童生徒となっております。

【委員】わかりました。こどものいじめ問題が対象とのことですが、大人や社会の問題という面もでてきますよね。

【事務局】対象者としてはこどもとなっておりますがこどもの課題かと思いますが、その親も関わってくると一緒に考える部分もあるのかなと思います。

【委員】外国籍のこどもがいじめられるケースは実際あるのでしょうか

【委員】先ほどは一般論でお話しましたが、富士見市ではいじめの重大事案では外国籍の方というのは聞いていません。いじめの対象というよりは、日本語習得ができないことを1人で悩んでしまう。その悩みへの対応をしていることがあるそうです。

【委員】外国籍で日本語が不自由だとからかわれることはあると思います。小学校低学年では自分と違うところをすぐ声に出してしまう。それが全部悪い

と決めつけると、こどもはのびのび育てない。そこで出た言葉について反省していくとか、気が付いて直していけばいいのですが、いじめという一つのレッテルを貼られてしまうと難しいのが実情です。

【委員】国によっては外国から来ているこどもはタフというか、家庭のしつけの様子も日本とは違うなと思います。

【委員】高齢者と一緒に住んでいるこどもは、のびやかというか愛想がいいというか、きちんと挨拶してくれます。挨拶しないのは教えてくれる大人がいないのかなと思います。親の言葉遣いが悪いと、その親に育てられるこどもも言葉遣いが悪くなる。悪循環になっているのかもしれませんが、昭和が良かったわけではありませんが、昭和の親と令和の親は違うように感じます。

【委員】確かに、こどもは適当な格好で親はきれいにしている人もいます。

【委員】自分も大事ですが、なりふり構わず育てるという感覚が感じられないような気がします。あと、女性の言葉遣いがちょっと乱暴になっているのが怖いです。

【委員】最近では親もこどもも、心地いい環境ばかりにいて、違う環境に身を置かないで通ってしまっている。ちなみに今の親同士はどのような感じですか？

【委員】今は両親が働いている方が多く、働いていない親は少ないです。なので、親同士の交流が少ないかなと正直思います。こどものことで悩んでも、他の親に相談できなくて話が大きくなる場合もあるのかなと感じます。相談してくれればいいのと思うけれど、家庭の問題にどこまで声をかけていいのか難しい。ちょっと問題がありそうに見えてもなかなか言えません。

【委員】今まではPTAがあって、そういう関係性、コミュニケーションがあったように思います。

【委員】だからPTAも継続してほしいなと思います。

【委員】横のつながりだけでなく縦のつながりもあり、いろいろな情報が入る。PTA活動が大変なのは分かるのですが、なくなってしまうのはどうなのかなと思います。

【委員】市のPTA連合会も加入しているところが減ってきています。

【委員】違う学校の方の話を聞くことも、必要であると思います。

【委員】他の学校のことを聴いて、自分たちの学校に情報を下ろしていくこともできます。今はできない感じです。

【委員】PTAのつながりがなくなることが、逆に親を苦しめているのではないかと思います。義務から逃れることで、知ることを遮断してしまって相談できず、こどもに向かってしまう。それが次のいじめにつながることもあるのではないのでしょうか。

【委員】育成会はどうでしょう

【委員】育成会があるところとないところがありますね。

【委員】育成会は町会の中の組織です。だから、何かあった時、町会のベテランの方たちと話したり相談したりできたと思います。価値観がみんな違って、やらなくてもいいのではないかなとありますが、救いを得たい、助けてほしいと言うところがなくなっている。いじめに関しても厳しくなっている気がします。

【委員】親の関係もすごく大事で、一つの価値で固まってしまう方とどう対応していくかがあります。いじめはいけない、人権を傷つけるのは絶対ダメというのはもちろんなのですが、今学校では警察的なことも求められていると感じます。学校では、こどもたちに聞き取りをして、理解をしてあげた

うえで、悪いことは悪いからやらないようにしようねという形で解決に持っていきたいのですが、今の親はそれでは許してくれない。白黒つける、どちらが良いか悪いかになります。学校ではいじめの調査はしますが、分からないところもあります。なので、過去のことでなく、これからはやめようと進めていきたい。それを警察的なことを求められます。そこが、今後いじめ対応を進めていく上ではすごく難しいし、そこに親の関係やいろいろな考えがあって、お互いを認められるやわらかい雰囲気のある学校であればいいのですが、一つの価値観に固まっていると難しい。教育をする立場の学校としては求められても難しいです。警察もそういうものがあるのでしょうか？

【委員】中には白黒つけてほしいと言われる方はいらっしゃいます。昔なら親同士や子ども同士で謝ったりして終わってしまうところを、何かしらの形をとりたいという方もいます。今は価値観が変わってきているかなと思います。

【委員】誰か悪者をつくらないとケリがつかない。学校は大変だと思います。

【会長】親が顔見知りになっていけば済むところが、それができないが故に、今みたいな皆が願わない状態になっているところですかね。

【会長】皆様貴重なご意見ありがとうございました。

7 その他

～事務局より～

いじめ問題対策連絡協議会傍聴要領の作成について説明

【会長】ご意見等はございますか。

～意見なし～

【会長】それでは、案のとおり定めます。

8 事務連絡

次回の協議会の日程：未定

9 閉会